

京都・紫野における都市探索グループワークによる発見的価値付けへの「ダイアログ手法」の応用可能性 Applying DIALOGUE to the Exploration into Urban Space for Evaluating heuristically in Murasakino, Kyoto

太田 裕通*・神吉 紀世子**
Hiroto Ota*, Kiyoko Kanki

This research is developing the “dialogue-based” approach for creating future scenario with various evaluation by inhabitants for the city with case project in Murasakino, the 100 years old Urban Sprawl Zone. We have developed the original method of DIALOGUE for Inhabitant's Evaluating Sphere, and practiced experimentally in Nishijin. The purpose of this case project in Murasakino is to obtain knowledge about Speculation, the next step for creating various scenario of City. As a result, 10 apprchers could make various speculation from individual points of view through making exploration into urban space and present it with some sketches each other.

Keywords: Evaluating Sphere, Dialogue, Evaluating heuristically, Sketch, Murasakino
都市認識, ダイアログ, 発見的価値付け, スケッチ, 紫野

1. 序

1-1. 問題の所在 -京都における発見的価値付けの意義

京都は様々なメディアを通して一般に共有され易いイメージが度々作られてきた一方で、その市街地の実態や居住者が捉えるエリアイメージは必ずしも一般イメージと近い訳ではない。従って将来を見据えてエリアを捉えようとする際、多様な価値付けを「発見」していくアプローチが必要である。紫野は大徳寺や船岡山といった有名な資源を有する北区の1エリアである(図1)。図1のように明治期以前の旧市街と昭和期の区画整理の境界にあたる大正期スプロール密集地を含むことから不整形な街区や細街路も多いという空間特性を持ち、エリア内には西陣織の下請け工業が多く存在し、その関連業者の生活に寄り添ってきた商店街等もある。まちづくりでは地域課題への個別対応や部分の地域資源の再評価に取り組んでいる一方^{注1)}、エリアの変化が進む中、中長期的な視点からは一般イメージに捉われ

ない価値付けを見出すことが必要であると思われる。このように都市・地域の現状に対して既に知られているものに限らず、外見では分かりにくい解釈や価値を能動的に見出すことをここでは「発見的価値付け」と呼ぶこととする。これを居住者や来街者と共に見出すことを促す手法の必要性から、現場での実践可能な方法を求めるのが本稿の問題意識である。

1-2. 本稿の課題 -「ダイアログ手法」の応用可能性

1-2-1. 発見的価値付けにおける「ダイアログ手法」の導入

本稿は文献2の既往研究を基として次段階の課題を扱うものである。既往研究では一見分かり辛い地域文脈を固有に捉え、対話によって地域の価値付けを行う方法が研究されており、我々が地域の現象に価値付けを行う際、「現象の価値判断においてその都市・地域らしさとして根拠となるような固定化されていない抽象的な捉え方(『都市認識』と呼ぶ^{注2)})」を得られれば、外見的に目立つ地域課題以外へも有用となると考えられている。抽象的で扱いが困難な「都市認識」やその切り口としての価値付けを捉える為、1990年代物理学者D・ボームが定義して以降社会・組織開発分野で再注目されているダイアログ(dialogue)^{注2)}を導入した独自の手法(「ダイアログ手法」^{注3)}と呼ぶ)が開発されている^{注2)}。手法の実践者は、居住者の雑多な話の中から「都市認識」を積極的に捉えようと試み、曖昧さを許容するスケッチ描画を用いて、価値付け候補を問い、互いに了解し合いながら「都市認識」を作り上げている(以下このグループワークを居住者DLと表示)。既往研究では手法の実践者をApproacher、居住者DLでの居住者はInformantと呼び^{注2)}、この呼び方は本稿でも採用している。

以上の既往研究を踏まえ、居住者DL後にApproacherが実空間に対する見え方が変わるという意見もあったことから、この手法を応用し発見的価値付けへ向けた観察グループワークを実験的に行うこととした。ここで課題となるの

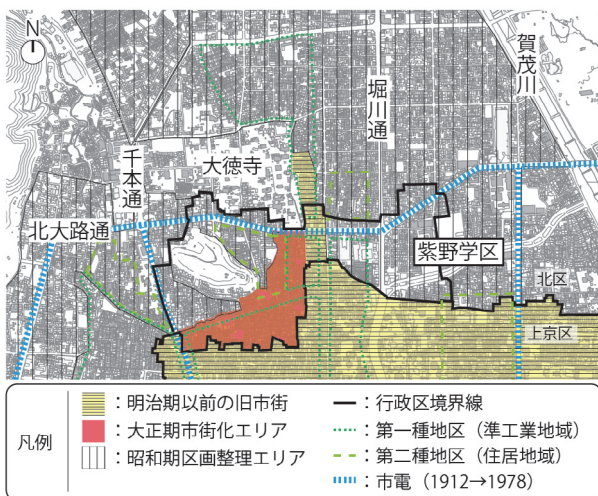


図1：紫野エリア(明治～昭和の陸地測量部発行1/2万地形図等から作成)

*学生会員 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 (Kyoto University)

**正会員 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 (Kyoto University)

は、Informant とのダイアログにおける話として得られた価値付けや「都市認識」を、参加した Approacher 本人がそれぞれ実空間の現象に対して、価値判断の根拠や新しい価値付けへの発想に応用することが出来るかどうかであり、この点が既往研究では扱っていない新規性である。

2015 年 5 月～7 月に上京区を覆い北区へも及ぶ西陣エリアにおいて観察グループワークのプレ実験を実施した^{注4)}。しかし、プレ実験では居住者 DL で居住者から聞いた話の実空間における確認作業に終始してしまい、発見的価値付けには至らなかった^{注5)}。この結果から単に居住者 DL 後に観察をするだけでなく、探索方法そのものにも発見を促す工夫が必要であることが認識された。

1-2-2. 都市探索における発見的価値付けの到達目標

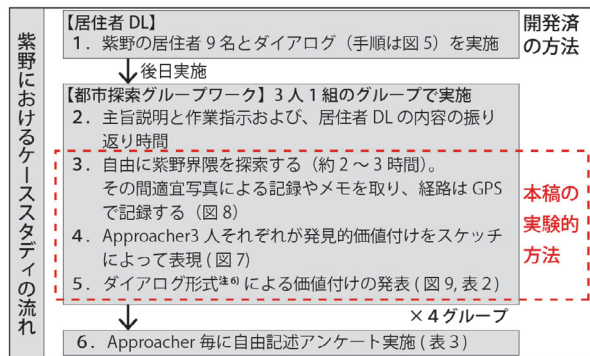


図2：本稿の紫野ケーススタディの流れ

本稿で取り上げるのは、以上の経過から改めて構成した「ダイアログ手法」を用いて実空間の観察から発見的価値付けを見出す一連の実験である（図2）。即ち「ダイアログ手法」における「Approacherの積極的な問い掛けの姿勢や表現自由度の高いスケッチ描画による意味内容の外在化²⁾」の要素を取り入れた Approacherのみが参加する都市探索グループワークの方法を試すものである。プレ実験の結果を踏まえ、本実験の到達目標として発見的価値付けとは、図3のように幾つかのレベルがあるとして考える。一般に問題発見やアイデア創造等発見的プロセスの成果に関する評価は客観的指標が無いため困難であるが、本実験では居住者 DL での聞いた話から Approacher 毎の固有な価値付けへの展開（図3-①）、さらに抽象化及び応用性の観点から「都市認識」への到達（図3-②）、という指標で評価を行うこととした。

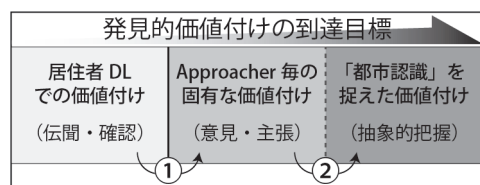


図3：発見的価値付けの到達目標

2. 本稿の構成

2-1. 本稿の目的 - 「ダイアログ手法」の応用可能性の検証

以上から本稿では「ダイアログ手法」を基礎技術とした発見的価値付けの為の都市探索を京都・紫野において実施し、その結果を図3のような指標と照らして分析を行う。ここで、本稿の目的は、図3の目標へ到達するような発見的価値付けを確認することにより、本方法による都市探索が少なくとも実施可能であることと、「ダイアログ手法」の

都市探索への応用性を示すことである。

2-2. 研究の方法 - 紫野地域におけるケーススタディ

表1：本実験参加 Approacher の属性

記号	学年	紫野地域への訪れた回数（本人談）
a	博士課程1年	数回探索したことがある
b	修士課程2年	何度も探索した（10回以上）
c	修士課程1年	数回探索したことがある
d	修士課程1年	何度も訪れた（10回未満）
e	学部3年	ほとんど無い
f	学部3年	ほとんど無い
g	学部3年	何度も訪れた（10回未満）
h	学部2年	ほとんど無い
i	学部2年	ほとんど無い
j	学部2年	ほとんど無い

紫野における実験として改めて10人の Approacher（表1）から成るグループを組織し、紫野在住の9名

と居住者 DL（図2-1）を行い、その後都市探索を行い Approacher それぞれが紫野に対する発見的価値付けを試み、その内容を「ダイアログ手法」の際に用いたスケッチ方法を用いて表現する（図2-2～4）。そしてダイアログ形式で内容を理解しながら、価値付けの発表を行う（図2-5）。また、事後に自由記述アンケート^{注7)}を採る（図2-6）。以上から採録されたスケッチやデータ等を根拠とし、図3と照らしながら考察を行う。

2-3. 本稿の構成

以上から、本稿の構成は図4のようになる。

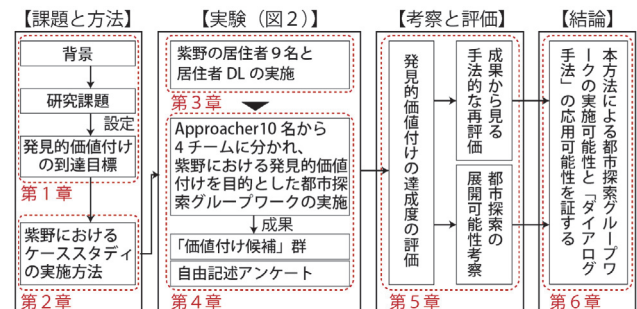


図4：本稿の章構成と実験の流れとの関係

3. 紫野における居住者 DL の実施

先ず文献²⁾に基づいて紫野における居住者 DL（図2-1）を図5の手順で行った。

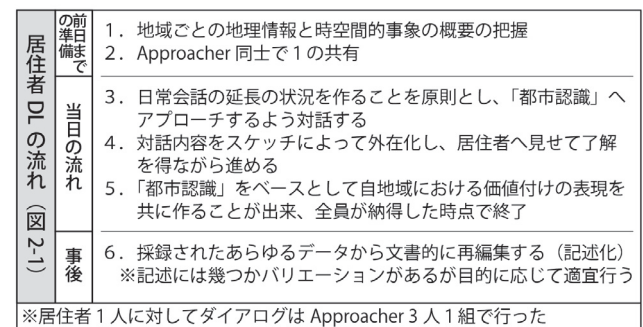


図5：居住者 DL の実施流れ

3-1. 事前準備—紫野の時間的・空間的コンテキスト把握—

ダイアログにおいて Approacher 側がある程度の地域理解が無いと居住者とのコミュニケーションが成立し辛いいため、事前に1-1（図1参照）で記述したような紫野界隈の時間的・空間的コンテキストの把握を行った（図5-1,2）。

3-2. 居住者 DL の実施概要

9名 Informant の選定はスノーボールサンプリングによって行ったが、性別・世代・生業の多様性を認められる（図



実施日
2015.11/11
世代 / 性別
70代 / 女性
生業
米屋
Approacher
a、b、d

Aとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）紫野で63年続けた米屋<a1>
（2）昔の町内環境は酷かった<d1>
（3）昔は野原だった紫野
（4）区画整理で変わる北區
（5）大徳寺の所有地と空き家問題<a2,a4>
（6）芝居小屋、風呂屋等来る大徳寺通り<a3,d2>
（7）子供の頃遊んでいた場所
（8）派手ではない隠れた史跡
（9）高級住宅街北船岡町<d9>
（10）「うちとこ」のエリア<a5,d3>
（11）サーカスが来てた今宮神社
（12）現在夜が寂しい紫野<d7>
（13）井慶の腰掛石（隠れた史跡）<a6,d4>
（14）通った船岡公園市場<d5,d6>
（15）幾つかの建物を所有した暮らし<a7>
（16）細々とした街割りと隠れた道<a8,d8>
（17）お米屋さんネットワーク<a9>
（18）お得意さんの狐がら<d10>
（19）近隣の方々の情報<a10,d11,d12>
（20）お地蔵さんの管理とその気持<d13,d14>
（21）紫野（紫の野）の名前が好き
（22）Aさんの思う西陣の範囲<a11,a12,d15,d16>
（23）職人のまちらしさ<d17>

「自分のまち」のエリア<a5,a11,d3>
米屋のネットワーク<a9>
お地蔵さん管理<d14>
大徳寺のエリア<a4>
Aさん宅のリフォーム案<d13>
紫野の隠れた史跡<a6>
銭湯があったころは賑やか<d7>
紫野の範囲はどこか<a12>
まち・仕事・西陣の範囲<d17>
隠れた道<a8>

Informant-Aの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.11/21
世代 / 性別
60代 / 女性
生業
主婦
Approacher
a、b、c

Bとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）住居移住の経緯<c1>
（2）自分のまちの範囲、庶民的なエリア<a1,a2,c2>
（3）来住当時～現在の紫野の様子<a3,c3,c4>
（4）気分の良い暮らしに<a4,c5,c6>
（5）交流と気配りに溢れるB宅<a5,c7>
（6）西陣の範囲<a8>
（7）幾つかの住居を往来する暮らし<a6,c8,c9>
（8）自分の家の範囲が広い<a7,c10,c11>
（9）紫野近況
（10）近所付き合いと経路
（11）食事回りの巡回する仲良いメンバー<a9>
（12）京都の防災意識と人口
（13）井の中の蛙、西陣
（14）まちに開いた暮らし<a10>

なじみのエリア<a9>
町のイメージ今昔<c10>
家のような外<a7>
家への意識、開き方<c7>
気分の良い庭、暮らし<a4,a10>
手を加えた例<c6>
生活圏内のイメージ<c2>
サーカスお食事会<a6>
家の開き方<c11>
なじみの地域と古い京都<a11><a11>

Informant-Bの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.11/24
世代 / 性別
80代 / 男性
生業
元染職
Approacher
a、b、j

Cとのダイアログの様子

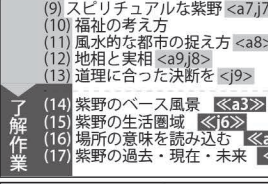
【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）Cさんのライフストーリー<a1>
（2）15歳から染め職・職人・職奉公<a2>
（3）自地域の意識<a4>
（4）大徳寺の点在する土地<a2,j1>
（5）紫野の原風景<a3,j2>
（6）近現代の変化<j3>
（7）モデル地区の提案<a5,j4,j5>
（8）紫野という固有な名詞の価値<a6,j6>

Informant-Cの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/01
世代 / 性別
60代 / 男性
生業
材木商
Approacher
b、d、e

Dとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）明治から紫野にある建物<d1,d2,e1>
（2）紫野周辺の歴史的事象<d3,d4,e2,e3>
（3）自地域紫野の範囲と西陣の関係<d5~8,e4~10>
（4）歴史に度々登場する紫野<e11>
（5）船岡山周辺の話<d9>
（6）弱まった紫野コミュニティ<d10~17,e12,e13>
（7）地域活動への関わり方<d18,e14,e15>
（8）空き家の活用ビジョン<d19~22>
（9）平安時代の紫野のイメージ大事<d23~29,e16>
（10）船岡山リゾートホテル提案

西陣における紫野の位置づけ<d5>
「野」のイメージ<e8,e16>
コミュニティ弱まる原因<d10,d21>
空き家を外に広げる<d21>
西陣・自地域紫野の範囲<e4,d25>

Informant-Dの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/11
世代 / 性別
90代 / 男性
生業
元印刷業
Approacher
b、c、h

Eとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）Eの捉える京都歴史的事象<c1,h1>
（2）京都の「顔」、野原の紫野<c2~4,h2>
（3）Eのライフストーリー<c5,c6,h3>
（4）紫野にある寺社の歴史<c7>
（5）自地域の範囲<c8,c9,h4,h5>
（6）サーカスがあった賑やかさも消えた<c10,h6>
（7）昔からの本来的な大事にした暮らし<c11,h7~9>
（8）紫野の原風景は色の無い町<c12~14,h10>

3つの時代で捉える<c13>
子供の頃、お母さんの町<c8,c11>
子供を通してご近所付き合い<h8>
三角野原北帯が原風景<c2>
町と郊外の境、鞍馬口通り<c1>
町の変化と考える変化<c10>

Informant-Eの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/13
世代 / 性別
60代 / 男性
生業
洗濯業
Approacher
a、b、i

Fとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

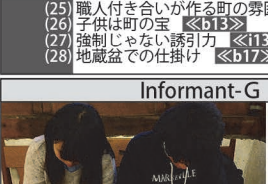
（1）金鶏町の地蔵盆の熱気<b1~3,i1>
（2）戦後の新興地としての紫野
（3）子供時から住む紫野での暮らし<b4,b5>
（4）長屋の付き合いが引き継がれている<i3>
（5）西陣織の衰退と町の様子<b6,i2>
（6）西陣の範囲、上京が中心<b7>
（7）お地蔵さんの多い地域
（8）金鶏町の美しい名前
（9）紫野の原点は「野」のイメージ<b8,b9,i4>
（10）空き家、大徳寺の土地所有課題<b10,b11>
（11）子供は宝<b13>
（12）職人の付き合いが残る雰囲気<b12,b14i5~7>
（13）持続的な地域づくり<b15,b16,i8~10,i12,i13>
（14）金鶏町の丁度良いスケール感<b17~20>
（15）まちなかにある自然、船岡山
（16）史跡のある地域
（17）開かれた学校を目指して<i11>

職住関係の変化とまちの変化<b10>
経験、想いの循環<i12>
まちを守る組織作り<b18>
子供等の侵入を許す雰囲気作り<b16>
付かず離れずの近所付き合い<i5>
縁のつながり構のつながり<i3,b20>
西陣織の分業間の往来<i2>

Informant-Fの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/15
世代 / 性別
80代 / 女性
生業
菓子屋
Approacher
b、f、g

Gとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）昭和3年から続く商店
（2）旧大宮通りの賑わい<f1~3,g1~5>
（3）開けっ放しの暮らし、今も残る<f4>
（4）お得意さんのネットワーク<g6~8,f5,f6>
（5）紫野の中でも雰囲気の違い場所<g9,f7>
（6）今と昔が変わったところ<g10,g11,f8,f10>
（7）西陣の範囲<g12,f9>
（8）この20年で変わった紫野<g13~17,f12,f13>
（9）1年に1回の付き合い合い<g18>
（10）地蔵盆との関わり

昔の旧大宮の風景<g10>
西陣の範囲<f9>
住みやすい紫野<f7,g15>
地蔵盆時のふたば周辺の様子<f11>
ショートカットして走れた野時代

Informant-Gの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/19
世代 / 性別
70代 / 男性
生業
飲食
Approacher
b、c、j

Hとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）昭和22年から続く商店<c1,c2,j1>
（2）鞍馬口の北はサラリーマン住宅地<b1,c3,c4,j2>
（3）鞍馬口商店街の今昔<b2,b3,c5~7,j3>
（4）店の密集が原風景
（5）なじみのあるエリア<c8,j4>
（6）西陣の範囲、ここが中心<c9,j5>
（7）昔の繁盛した様子<b5,c10,j6,j7>
（8）4軒だけになった対面販売<b4,j8,j9>
（9）子供の遊ぶ姿、今昔
（10）生活の中心が鞍馬口通り<b6~10,c11,c12,j10>
（11）西陣と紫野のイメージに差は無い
（12）お店のつくりがもたらす効果<c13>

商店街のイメージ今昔<c6>
販売・生活ゾーン<j5>
3要素から見る町の意識、今昔<c11>
昔から残る4軒の店の存在<b2>
西陣に対する意識<j2>
西陣の範囲<j4,j9>

Informant-Hの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ



実施日
2015.12/27
世代 / 性別
30代 / 男性
生業
大学職員
Approacher
a、b、h

Iとのダイアログの様子

【パラグラフ（時系列）】凡例：スケッチ<描いた><見せた>

（1）学生時代から10年住んでる紫野<b1~4,h1>
（2）自共に認める紫野好き<b5,h2,h3>
（3）紫野内で4回の引越し
（4）紫野の範囲、堀川以东も含める<a1>
（5）誇りを持った暮らし<a2>
（6）回覧板がコミュニケーションペーパー<a3,a4,b6>
（7）木造密集地ならではの災害の心配
（8）空き家改修して住みたい夢
（9）大学と地域がwinwinの関係に<b7~10,h4>
（10）回覧板のリニューアル、新しい風<b11,h5>
（11）PTAが登壇門<a6,b12>
（12）根強い学区意識<b13,b14,h6>
（13）西陣は上京<b15,h7>
（14）参道から見る建敷神社の風景が良い<b16,h8>
（15）鞍馬口の通り抜けは怖い<b17,b18>
（16）紫野にとって異質なものの<a7~8,b19~21,h9~10>

昔・新・学生3層を繋ぐ<a2,a5>
学区の交流の仕組み<h6>
回覧板はSNS<a3>
自地域の範囲<a1>
紫野らしさと船岡山という存在<h5>
紫野全体が一つの家<b19>
紫野を感じる風景<h8>
紫野にとって異質なものの<a8,b18,b19>
学生との関わり<b8>

Informant-Iの語り App. スケッチ

了解作業

語りとスケッチ

図6：紫野の居住者DL全9回の概要（居住者属性や実施情報、対話内容等）

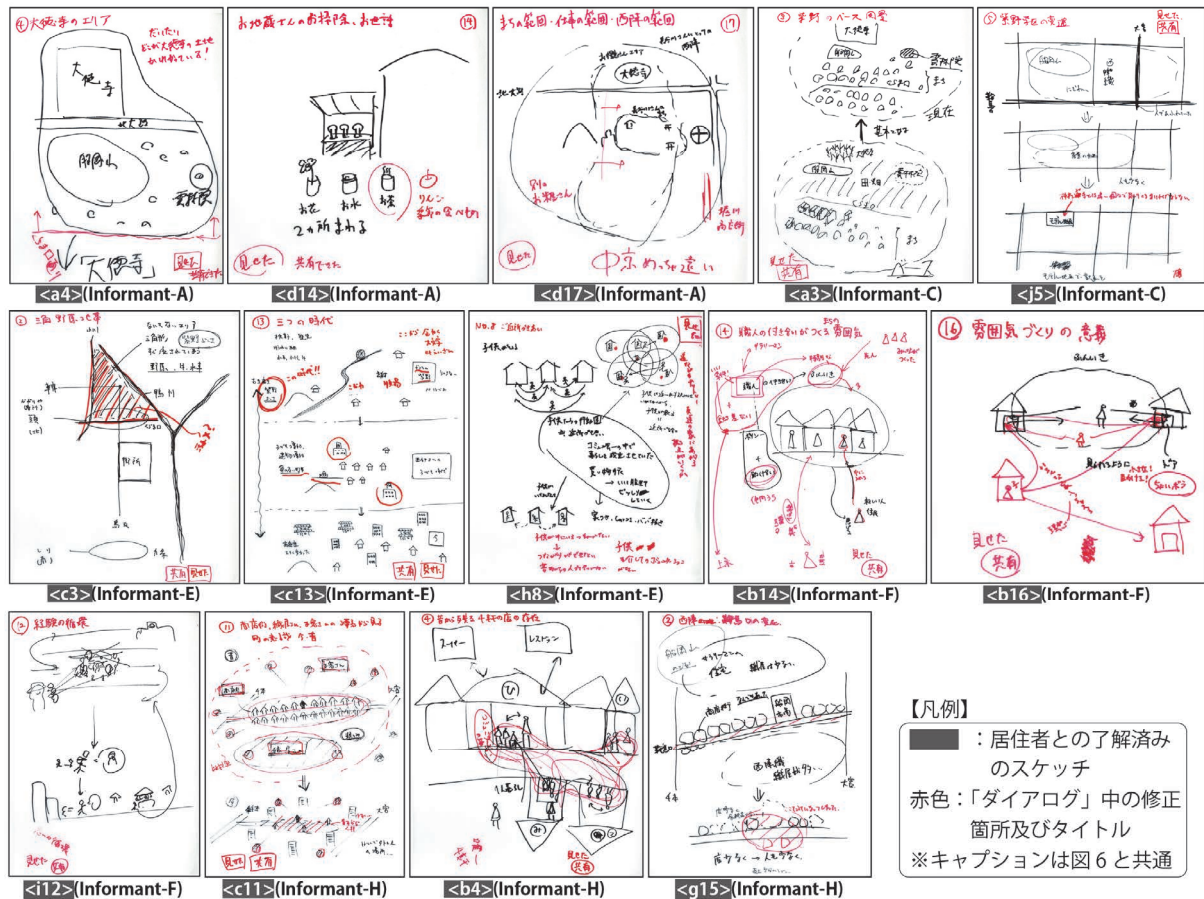


写真1：居住者DLにおける主なスケッチ群（赤は居住者から指摘のあった修正事項）

6). ダイアログは住居の客間や工場の事務所等、居住者の指定した紫野内の某所で実施し、実施時間は2～3時間程度であった。全てのダイアログで少なくとも「都市認識」を了解し合い、紫野への価値付けをスケッチと共に獲得した（主なスケッチは写真1を参照）。スケッチの描き方は図7の方法で行った。尚、図6は9回全てのダイアログの内容の Paragraph とスケッチの描いた場面と見せた場面等をまとめたものである。

3-3. Informant 毎の「都市認識」と価値付けの解説

ここで、9回の居住者DLで獲得された「都市認識」と価値付けの中から後述の考察で参照するものを図6及び写真1を参照して要約すると次の様である。

まず Informant-A は「目立たない小さな資源たちの密度が高い紫野エリア内で、お米屋さんの配達ネットワークを中心とした地域との関わりの中で作られたつながりを大事にし、『自分のまち』と呼ぶエリア（写真1<a4><d14><d17>）」に価値を見出している（図6-Aの(24)～(26)辺り参照）。Informant-C は「紫野の原風景は、元々林であった大徳寺、現在よりも大きかった雲林院、船岡山、そしてそれ以外では田畑であるという何もない風景であり（写真1<a3><j5>）、固有名詞『紫野』は表層的な要素は重要ではなく、その土地に意味があり、『紫野』それ自体に価値があると捉えている（図6-Cの(14)～(17)）。Informant-E は「紫野らしさは、町ではなく郊外（鞍馬口より北）で二つの川

に挟まれる『何もない三角野原地帯』であると捉え（写真1<c3>）、京都における紫野あたりの位置付けは大徳寺や御所がある所謂『頭』であり、歴史にも登場する日本の原風景としての紫野（写真1<c13>）」に価値を置いている（図6-Eの(10)(13)～(15)）。Informant-F は「下請け職人のまち紫野が（写真1<b14>）、ずっと持ち続けてきた『お互い様の文化』が未だに意識的に守られている地域の魅力（写真1<b16><j12>）」に価値を置いている（図6-Fの(18)～(28)）。Informant-H は「鞍馬口通を中心に自地域を捉え、それより南は織屋の多い地域、北は住宅地であり（写真1<g15>）、それらと異なる『鞍馬口境界のアイデンティティ』（写真1<c11>）と、店と通の境がないような開けた住民の過ごし方（写真1<b4>）」に価値を置いている（図6-Hの(13)～(18)）。

4. 紫野における都市探索グループワーク

4-1. 準備と作業指示の仕方

図2、図7の手順で都市探索を Approacher 3人のグループによって4回実施した。それぞれに大まかな実施の流れと主旨の説明をする際、プレ実験の反省^{注5)}から Approacher が居住者DLで聞いた話の確認に偏らないように、「歩いてみて気づく紫野の具体的な現象に対して面白さや魅力を先ず見つけ、その背景にどのような『都市認識』を見出すことが出来るか」を考えて貰うように伝えた。実のところ「発見的」な観察は本来手順的に作業するものではなく、本人による気づきをきっかけとするものと考えられる為、

正解を意識せず何よりも自身が面白いと思う現象を見つけ、記録として写真を撮ることから始めるように強調した。そこで、本人談による発見的価値付けの候補は「価値付け候補」とすることとした。また居住者 DL の実施日から時間が空いているため、9 回のダイアログ内容について思い出す時間も設けた。

「価値付け候補」の表現(図 2-4)には「ダイアログ手法」においても導入されている自由度の高い表現媒体であるスケッチを用いた(図 7)。都市探索中、全ての段階における音声を録音し、探索経路は GPS でデータ化した。

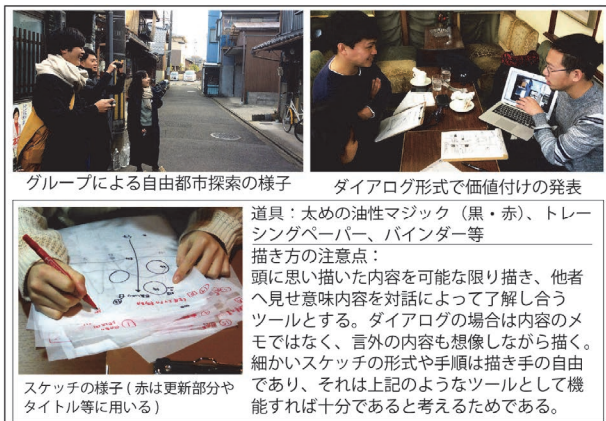


図 7：「ダイアログ手法」におけるスケッチを取り入れた都市探索

4-2. 実施結果—都市探索から発表に至るまでの様子—

結果、当日のスケジュール、グループ毎の探索経路、探索中の写真撮影場所は図 8 のようになった。紫野への訪問回数(表 1 参照)、居住者 DL の参加回数(図 6 参照)の差や Approacher 毎の個人差に依らず、全員が少なくとも 1 つ以上の「価値付け候補」を発表することが出来た。「価値付け候補」は総数 51 個であり、それらのタイトル一覧(本人による命名)とその簡単な解説、居住者 DL 時における内

容への指摘、探索中の撮影写真枚数等の情報は表 2 の左半分のように示す。

探索時、表 1 のように本探索に参加する以前に紫野への訪問経験が少ないほとんどの Approacher は、序盤は居住者の話を基に手探りで探索を始めている。探索中に各々のきっかけ(表 3)で現象を写真に残していく。中盤以降は現象にパターンや共通性を見出す等、自分なりの地域に対する見方が出来るようになっていく。この様子はアンケート結果からも確認出来る(後述)。そして全員が探索後、1 時間程度であり手が止まることもなくスケッチによって「価値付け候補」を表現することが出来、発表を行った。発表中は他のグループメンバーらとのインタラクティブな対話を通して価値付け内容を了解し合い、より面白い解釈が思い浮かんだ場合等にはその都度指摘するような「ダイアログ手法」を用いた進め方で行った。

4-3. 「価値付け候補」の例

表 2 のように本実施で得られた「価値付け候補」は 51 個である。ここではその中から 5 章の考察において例として参照するものを、発表時の本人の発言(抽出)とスケッチ、関連写真(図 9)を参照しながら解説する。

a-④『「野原」』としての紫野』は、幾つかの Informant の話を総括した上でまとめた「価値付け候補」である。新しいマンション(図 9-pic[1])等が北大路通りに向かって建ち、紫野の地名を名乗っていない現象を指し、船岡山や大徳寺、大型マンション等の存在を引いて残ったところこそ「野原」としての紫野本来のあり方であると価値付ける。さらに a-④『「野原」のラフさ』は、大正期スプロール密集地ならではの不整形な敷地から隙間の空間が多く、そこを居住者が巧く使いこなしている現象(図 9-pic[2] [3] [4])を指し、その「屋外空間に対する奔放さ」を「野原」のラフさと結び付けて捉えている。c-①「4 時代」は、Informant-E の紫

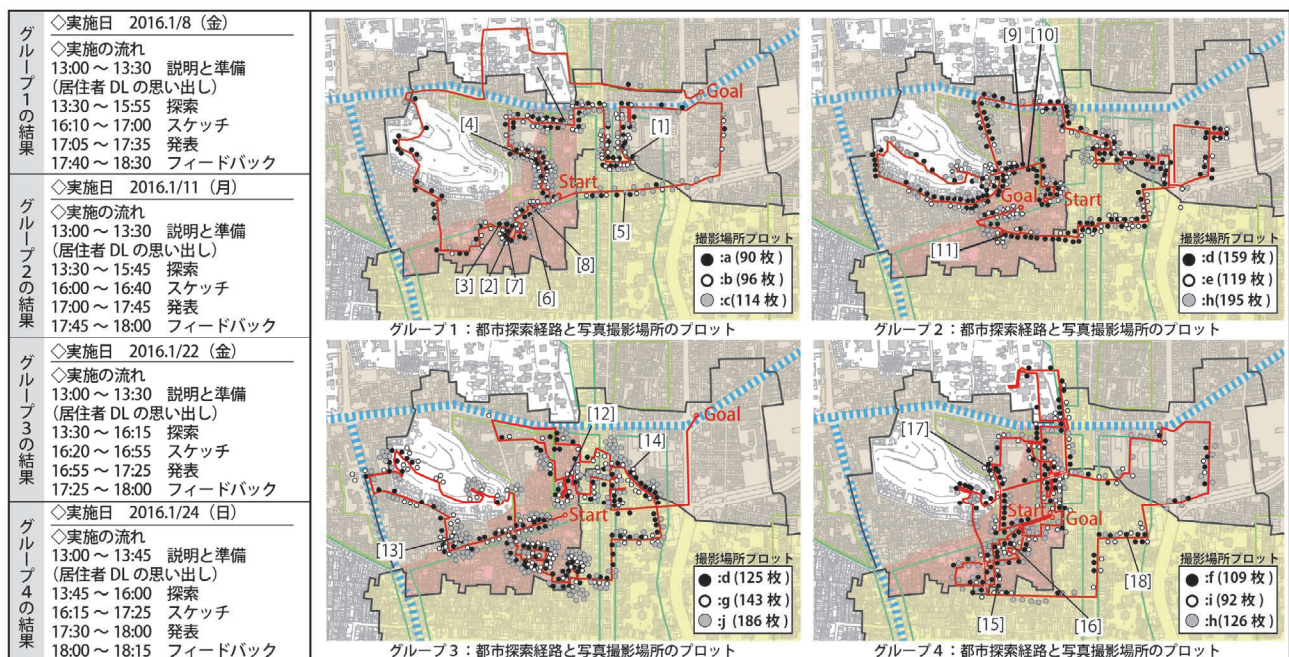
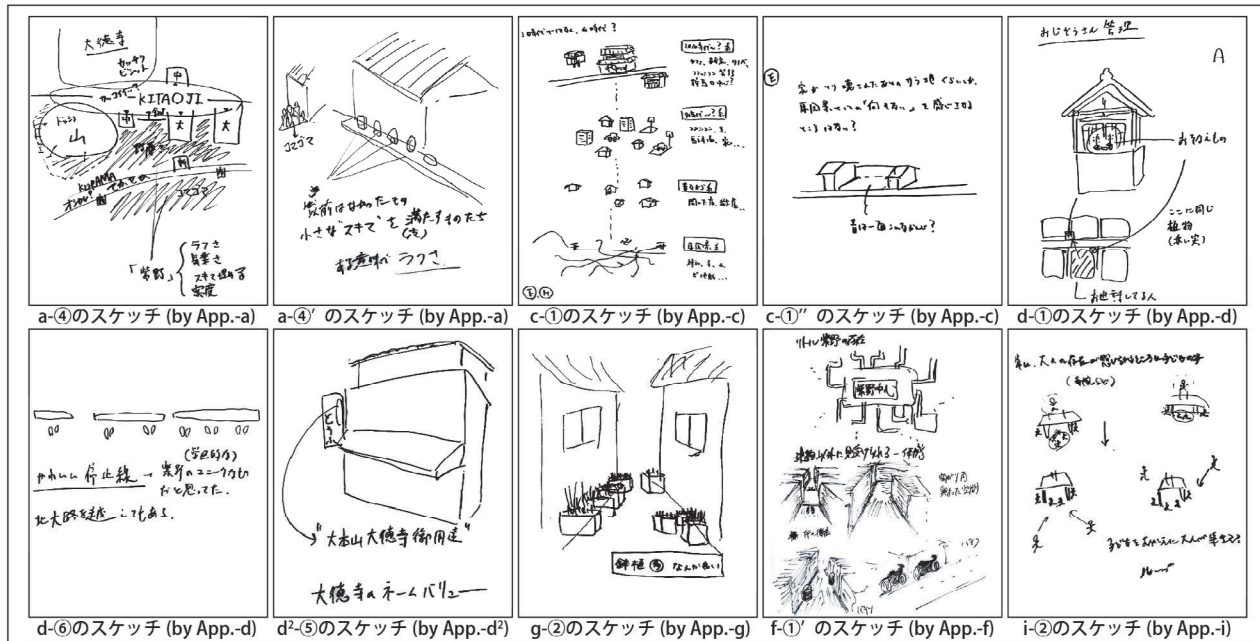


図 8：都市探索グループワーク全 4 回の概要(経路は GPS から作成、写真プロットは撮影者によるもの)



「価値付け候補」例のスケッチ群 (4-3 参照)



「価値付け候補」例の関連写真群 (4-3 参照：撮影場所のプロットは図8に記入)

a-④：「野原」としての紫野

a「(略) 結局パークシティにしる新しいやつ全部、北大路に向かって建ってるから、紫野は名乗らないのよね、(略) 全然住む世界がちがうんだと。船岡山はどっしりで、大徳寺ははっちりと、鞍馬口はせかせかと、おしゃべりみたいな最近のね、新しいやつはそっちはいるわけ。で、そうじゃないやつが全部「野原」みたいな、紫野。その隙間埋めるとか、野原のラフさ気楽さ、歩いて感じれる話かな」

c-①'：更地こそ原風景

c「(略) 更地になったとて見ると、原風景として残ってるのはこれかなって、何も無い風景はこれかなって、なるようになりました。」

d-⑤：大徳寺のネームバリュー

d「大徳寺が、豆腐屋さんの大徳寺御用達っていうのが、(略) 僕は名前をつけるっていうのもあるのかって思って。カラオケ大徳寺とかは思わないんですけど、大徳寺御用達って書いてる強さっていうか、宣伝力みたいなものがあるかな、名前から来る。(略) これはAさんのときもちらっと出てたのかな。」

d-①：お地藏さん管理

d「(略) お供え物してるなって思って、反対側の家見たら(略) お供え物を育ててるやんけってなって、(略) 多分お供えできてると思って育ててる気配があるなって思ったのです。で山を下って建敷を歩いてるとき、こころへんを歩いてるときもあるなって、見てて。結構この人らはこれをちぎってやってる、他の家の取ることはないと思うし。一番最初に見つけたんですけど、今日の発見です。これはAさんの話に関連してますね。」

g-②：鉢植え多いんか良い

g「普通に歩いて思ったんですけど、植物があるところは親近感が沸くというか、何かええなってなる。一体感というか、生まれてる気がして。(略) どこでもそう、ありますけど紫野はどうかな。いつもと違ったんかな。鉢の数が多かった気がします。気のせいかな。」

a-④'：「野原」のラフさ

a「(略) 都市空間の余剰、隙間を埋める系が見つかったという話。紫野って、なんかかんやで隙間を満たすものたちが何かうまいなって、色んな箇所であって、ある意味でラフさというか、そういうのが許容されるラフさがあるなって言う話。紫野らしい良い所だなと。」

f-①'：リトル紫野

f「(略) 勝手に僕が名付けたんですけど、「リトル紫野」っていうのが存在するなって思って。このふたつの近くに細い道がいっぱいあって、違う紫野があるなって思って。この中にも新しい住宅とか建ててたんですけど、紫野を感じるなって。曲がり角がいっぱいあったなって思って、先が見えないところとか。(略) 細い道の中での一体感っていうのがすごい感じられたなって。それがこの大きい紫野で、その中心部の中でのすごい小さい空間があるなって。」

c-①：4時代

c「Eさんの話で(略) 原風景としての何も無かった場所と、昔の織屋立てとかが密集していたときの話と、開発されてマンション建っているのがあって、それにプラスでもう一個なんか、カフェとか雑貨とか町家リノベ系の感じがする「ファッション紫野」的にあるのでは。(略) 3時代というより、4時代で考えた方がいいんじゃないか。」

d-⑥：かわいい停止線

d「停止線に足跡があるっていうのが、(略) 西陣の中にもなくて、北に行くにつれて、これが出てきた瞬間に、こっから紫野って思って。(略) 缶蹴りとかのルールって境界作らないといけないのでそういうのに使えるなって、ちょっとポテンシャルを感じるなど。」

i-②：常に大人の存在が感じられる

i「これは、最初に行った宗教施設に(略) ちょっとのぞいたら子供が遊んでて、(略) こういうのが地域の中であちこちあるのになって。ここからは私の妄想なんですけど、遊んでいる子供を迎えに行く大人がここにくるっていうループがあって、人が集まってくるのになって事なんです。(略) Fさんのお家に子供たちが勝手に来て遊んでるっていう話を聞いて、(略) 紫野地域全体がそんな感じなのかなって。」

「価値付け候補」例の発表内容 (4-3 参照：Approacherの発言から抽出)

図9：「価値付け候補」例 (4-3 参照)

表2：都市探索グループワークによる「価値付け候補」の一覧と「発見的価値付け」の達成度（次頁に続く。判例は次項参照）

グループ	App-roacher	通し番号：「タイトル（本人による命名）」 筆者による内容解説	関連写真枚数	関連写真の例（本人撮影） ※枚数の多いものは抽出	居住者 DL との関連（図6より）		図3の到達指標（5章）	
					Informant	【パラグラフ】 凡例：スケッチを描いた「見せた」	① (5-1)	② (5-1-2)
1	a	a-①：「金鶏町のまとまり感」 金鶏町が顔の見える良いスケールであることを空間的に確認	4枚		F F F	(1) 金鶏町の地蔵盆の熱気 <b1~3,i1> (14) 金鶏町の丁度良いスケール感 <b17~20> (25) 職人付き合いが作る町の雰囲気 <b14>		
		a-②：「大徳寺と空き地」 紫野の空き地を大徳寺と結び付けて捉えるように評価変わった	2枚		A A C	(5) 大徳寺の所有地と空き地問題 <a2,a4> (27) 大徳寺のエリア <a4> (4) 大徳寺の点在する土地 <a2,j1>	○	
		a-③：「建勲神社の参道」 参道が地であり、建物は上モノであると感じた	1枚		I I	(14) 参道から見る建勲神社の風景が良い <b16,h8> (28) 紫野を感じる風景 <b8>		
		a-④：「野原」としての紫野/a-⑤：「野原」のラフさ 紫野の本質は「野原」で、その隙間を埋めるラフさを価値付け	23枚		C C F	(5) 紫野の原風景 <a3,j2> (14) 紫野のベース風景 <b3> (9) 紫野の原風景は「野」のイメージ <b8,b9,i4>	○	☆
		b-①：「自分のまち」のまとまり 紫野におけるそれぞれの「自分のまち」が無くなっていく。Hにとっては鞍馬口通りの商店、Iにとっては異質の増加	5枚		H H I I	(8) 軒だけになった対面販売 <b4,j8,j9> (10) 昔から残る4軒の店の存在 <b5> (16) 紫野にとって異質なものの <a7~8,b19~21,h9~10> (22) 紫野全体が一つの家 <b13>		
	b	b-①：「金鶏町1つの雰囲気」 扉を開けておく等一時的な住み方が金鶏町にも見られる	11枚		F F F F	(1) 金鶏町の地蔵盆の熱気 <b1~3,i1> (13) 持続的な地域づくり <b15,b16,i8~10,i12,i13> (21) 子供等の侵入を許す雰囲気作り <b16>	○	
		b-②：「人によって異なる捉え方」 開放的な住み方は多様な意図があるがそれが全体を作っている	1枚		B B B B	(8) 自分の家の範囲が広い <a7,c10,c11> (17) 家のような外 <a7> (28) 家の開き方 <c11>		
		c-①：「4時代」 c-①：「ファッション紫野」 c-①：「更地こそ原風景」 4時代で紫野を捉え直し、更地を原風景として価値付ける	14枚 6枚 3枚		E E E E H	(2) 京都の「頭」、野原の紫野 <c2~4,h2> (8) 紫野の原風景は色の無い町 <c12~14,h10> (10) 3つの時代で捉える <c13> (18) 三角野原北帯が原風景 <c7> (3) 鞍馬口商店街の今昔 <b2,b3,c5~7,j3>	○	☆
	c	c-②：「紫野らしいエリア」 北大路通と堀川通より西側、船岡山周辺を除くエリアが紫野	18枚				○	
		c-③：「閉じた世界を作る空間的特性」 昔ながらのある商店や町には微地形等、ローカルに対しては開いているが来訪者には入り辛いような閉じたい意味での閉じた世界を作る空間的特性が見られる	8枚		B B B B H H	(7) 幾つかの住居を往來する暮らし <a6,c8,c9> (10) 近所付き合いと経路 (11) 食事の巡回する仲良いメンバー <a9> (18) 家への意識、開き方 <c7> (3) 鞍馬口商店街の今昔 <b2,b3,c5~7,j3> (18) 商店街のイメージ今昔 <d3>	○	
2	d	d-①：「お地蔵さん管理」 お地蔵さんの管理の背景に捉える人の気配から紫野らしい地域社会構造を指摘しその現われとしてのお地蔵さんへの価値付け	2枚		A A A A	(10) 「うちとこ」のエリア <a5,d3> (20) お地蔵さんの管理とその気持ち <d13,d14> (24) 「自分のまち」のエリア <a5,a11,d3> (26) お地蔵さん管理 <d14>	○	☆
		d-②：「まちの風景」 Dさんの話から風光明媚な風景はこれかとの上から確認出来た	3枚		D	(5) 船岡山周辺の話 <d9>		
		d-③：「どこが紫野か」 紫野らしいエリアを探索後改めて地図化することが出来た	無				○	
		d-④：「壁に寄り添う自転車」 自転車の置き方がルーバーを利用する等独特で面白い	3枚				○	
		d-⑤：「船岡山の南側」 船岡山の南側が高級住宅地であることが探索から確認出来た	6枚		A	(9) 高級住宅街北船岡町 <d9>		
		d-⑥：「かわいい停止線」 停止線の子供の足跡が面白い、遊びのポテンシャルがある	3枚				○	
		d-⑦：「町名が建物に残る感じ」 商店やマンションに町名が入っている所からも紫野を感じ取る	無				○	
	e	e-①：「船岡山東側と南側の違い」 船岡山の東側と南側は通りとの関わりが異なることを確認	3枚		D D	(3) 自地域紫野の範囲と西陣の関係 <d5~8,e4~10> (15) 西陣・自地域紫野の範囲 <a4,d25>		
		e-②：「防災につながる街」 消火器が多く目に付き、防災を通じた地域の繋がりを指摘	4枚				○	
		e-③：「商店街」 看板の存在が人の行動を限定し町家のような距離感を出してる	2枚				○	
		e-④：「堀川周辺」 大型マンションによってその周辺の低層住宅も価値が下がる	2枚		D D	(3) 自地域紫野の範囲と西陣の関係 <d5~8,e4~10> (15) 西陣・自地域紫野の範囲 <a4,d25>		
		e-⑤：「ゾーニング」 探索から捉えた紫野の建物類型ゾーニングを地図化出来た	無		D D D	(3) 自地域紫野の範囲と西陣の関係 <d5~8,e4~10> (15) 西陣・自地域紫野の範囲 <a4,d25>	○	
		e-⑥：「船岡山西側」 工場地帯のような風景、無機質な印象がある	1枚		D D	(3) 自地域紫野の範囲と西陣の関係 <d5~8,e4~10> (15) 西陣・自地域紫野の範囲 <a4,d25>		
		e-⑦：「堀川東」 区画整理後の町並みと通りの一体感に適したスケールである	3枚				○	
3	h	h-①：「紫野と思うところ1~4（スケッチ4枚）」 EさんとIさんの話を参考に、探索を経て紫野らしく魅力的な空間要素を4パターン指摘する 1. 路地裏空間、2. 子供が遊びやすい道路空間、3. お地蔵さんの多さ、4. 町内会長の礼	8枚		E E I I I I	(7) 昔からの本来性を大事にした暮らし <c11,h7~9> (12) 子供を通して近所付き合い <b15> (8) 回覧板がコミュニケーションペーパー <a3,a4,b6> (12) 根強い学区意識 <b13,b14,h6> (18) 学区の交流の仕組み <c13> (22) 紫野全体が一つの家 <b13> (24) 紫野にとって異質なものの <a8,b18,b19>	○	
		h-②：「紫野を感じない場所」 大通りや区画整理、切り土等は紫野らしくない	3枚					
		h-③：「道路の幅は関係ない」 道路の幅によらず、子供が遊んでたら紫野らしさを感じる	無					
		h-④：「山緒ある神社など」 ダイアログ後に神社を中心に街を捉え直す視点が出来た	無				○	
		h-⑤：「探索中に感じたこと」 ダイアログを経て頭に地域のマップが出来たようになった	無					
		d2-①：「船岡山の地蔵さん」 船岡山西側が墓地だったと言う話をお地蔵さんの存在から確認	5枚		C(j)*	(9) スピリチュアルな紫野 <a7,j7>		
	d2	d2-②：「シンボルと町の関係」 船岡山中心に町名が付けられていることを発見、シンボルの価値	4枚				○	
		d2-③：「見事に南側に緑地帯」 jから聞いたHの職屋分布の話を実空間において確認	2枚		H(j)*	(2) 鞍馬口のjはサラリーマン住宅地 <b1,c3,c4,j2> (6) 西陣の範囲、ここが中心 <c9,j5> (18) 西陣の範囲 <j4,c9>	○	
		d2-④：「消火器を用意する主体」 町と会社毎に用意する消火器から確かなコミュニティを把握	6枚				○	
		d2-⑤：「大徳寺のネームバリュー」 大徳寺御用達等の看板から大徳寺の紫野における存在感を感じる	1枚		A	(5) 大徳寺の所有地と空き地問題 <a2,a4> (27) 大徳寺のエリア <a4>	○	
		d2-⑥：「旧大宮のさみしさ」 gから聞いたGの新旧大宮通りの時代変化を確認した	5枚		G(g)*	(2) 旧大宮通りの賑わい <f1~3,g1~5> (6) 今と昔で変わったところ <g10,g11,f8,f10>	○	

表2：都市探索グループワークによる「価値付け候補」の一覧と「発見的価値付け」の達成度（前頁より続く）

グループ	Approacher	通し番号：「タイトル（本人による命名）」 筆者による内容解説	関連写真枚数	関連写真の例（本人撮影） ※枚数の多いものは抽出	居住者 DL との関連（図6より）		図3の到達指標（5章）	
					Informant	【パラグラフ】凡例：スケッチを描いた「見えた」	① (5-1-1)	② (5-1-2)
3	g	g-①：「千本通りは境目」 紫野の西の境界としての千本通りを空間的に体感	3枚		G G G	(2) 旧大宮通りの賑わい <f1~3,g1~5> (6) 今と昔で変わったところ <g10,g11,f8,f10> (11) 昔の旧大宮の風景 <g10>		
		g-②：「鉢植え多いなんか良い」 他の京都のエリアよりも鉢植えが多くそれが魅力を作っている	16枚				○	
		g-③：「大宮通りの存在感」 居住者 DL 以前は意識しなかった大宮通りの存在感を感じた	無		G G	(7) 西陣の範囲 <g12,f9> (12) 西陣の範囲 <f9>		
		g-④：「あいさつされる良さ」 探索中に挨拶された。知らない人に対する意識が違う？	無		G G G	(2) 旧大宮通りの賑わい <f1~3,g1~5> (6) 今と昔で変わったところ <g10,g11,f8,f10> (11) 昔の旧大宮の風景 <g10>	○	
		g-⑤：「参道で山の見える良さ」 参道の背景の山がよく、周りの建物が良くなれば尚良い	2枚				○	
	j	j-①：「鞍馬口周辺の密度差」 Hの話で、鞍馬口の北側は住宅地、南側は織物屋が多いということを探索で確認し、空間的密度差を捉えた	7枚		H H H H	(2) 鞍馬口の北はサラリーマン住宅地 <b1,c3,c4,j2> (5) なしみのあるエリア <c8,j4> (6) 西陣の範囲、ここが中心 <c9,j5> (16) 西陣の範囲 <f12,c2>		
		j-②：「古いものに価値置くような建物の建ち方をしている」 紫野では古いものに価値置くような建物の建ち方をしている	4枚				○	
		j-③：「曲がり道」 鞍馬口の南側では見逃せない奥を予感させる空間が価値	5枚				○	
		j-④：「お地藏さんと町割り」 お地藏さんの通し番号を見つけ町割りを体感出来たことが発見	24枚				○	
	f	f-①：「物理的・心理的位置づけ」 f-①：「リトル紫野」 特徴的な空間性のまとまりを「リトル紫野」と名付け価値付け	10枚				○	
		f-②：「北大路の存在」 大宮通と北大路通はそれぞれ個性的で交差する場所は面白い	16枚		G G G	(2) 旧大宮通りの賑わい <f1~3,g1~5> (6) 今と昔で変わったところ <g10,g11,f8,f10> (11) 昔の旧大宮の風景 <g10>		
		f-③：「子供の存在」 子供が道路で安心して遊べる空間が紫野にはまだ残っている	2枚				○	
		i-①：「精神的な距離」 通りの幅によって作られる個性と住民の精神的な距離感	5枚				○	
		i-②：「常に大人の存在が感じられる」 子供が気ままに進める見守りの地域社会構造への価値付け	3枚		G G G	(11) 子供は宝 <b13> (21) 子供等の侵入を許す雰囲気作り <b16> (26) 子供は野の宝 <b13>	○	☆
4	i	i-③：「昔の形を残しつつ」 建勲神社辺りが紫野の空間を現しており、神社の周りのお店等昔からの形が残っていて今でも大事にされている。	5枚		F F F F F F	(4) 長屋の付き合いが引き継がれている <i3> (7) お地藏さんの多い地域 (12) 職人の付き合いが残る雰囲気 <b12,b14,f5~7> (13) 持続的な地域づくり <b15,b16,i8~10,i12,i13> (21) 子供等の侵入を許す雰囲気作り <b16> (25) 職人付き合いが作る町の雰囲気 <b14> (27) 強制じゃない誘引力 <i13>	○	
		i-④：「紫野の人はよく歩く」 バス停の位置から住民の行動範囲が広いのではないかと感じた	無		G(f)* G(f)*	(8) この20年で変わった紫野 <g13~17,f12,f13> (13) 住みやすい紫野 <f7,g15>	○	
		i-⑤：「お地藏さんを囲む連帯感」 お地藏さんを囲むことで一体感が重なり地域全体を作っている？	5枚		E(h)* E(h)*	(7) 昔からの本来性を大事にした暮らし <c11,h7~9> (12) 子供を通してご近所付き合い <h8>	○	
		h2-①：「間」で出来る紫野（スケッチ7枚） 紫野らしい空間特性を「間」として捉え直し価値付ける	14枚				○	
	h2							

【凡例】 ○：5-1-1における①-1 ○：5-1-1における①-2 ☆：5-1-2における図3-②を達成するもの
*：直接「ダイアログ」に参加していないが、帯同者のApproacher(記号)から聞いた場合
■：4-3にて「価値付け候補」の例として取り上げたもの(図8及び文中)

野を3時代として捉える「都市認識」を実空間で確認し(図9-pic[5][6][7])、近年増加している町家改修型店舗を指し(図9-pic[8])、「ファッション紫野」と本人としては批判を込めて名付け、4時代目であるとする。その上でc-①「更地こそ原風景」のように、一般に否定的に捉えられがちな更地(図9-pic[5])をむしろ1時代目の何もない原風景の現れとして価値付けている。d-①「お地藏さん管理」はInformant-Aの話から、お地藏さんに備えられている植物(図9-pic[9])とそれを鉢植えで育てている家(図9-pic[10])を指し、「ダイアログ」以前では意識することも無かったお地藏さんの手入れの背後にある人の気配に注目する。実は京都においては一般的な、地蔵と町内の暮らしを紫野らしい地域社会構造の現れの一部と捉える。d-⑥「かわいい停止線」では紫野エリア内に多く見られる停止線の足跡(図9-pic[11])に注目し、子供たちの遊び環境としてのポテンシャルがあることから価値を見出している。d-⑤「大徳寺のネームバリュー」は、豆腐屋の大徳寺御用達看板(図9-pic[12])に注目し、紫野における大徳寺の存在感の現れ(Informant-Aの話)として捉え直し、紫野らしさとして価値付ける。g-②「鉢植え多いなんか良い」は、京都の他の

エリアに比べて紫野エリアにおいて、玄関先の鉢植えが一段と多いことに注目し(図9-pic[13][14])、それによって地域に一体感が生まれ魅力的であると価値付ける。f-①「リトル紫野」は、大正期スプロール密集地ならではの細やかな空間特性を指し(図9-pic[15][16])、その中心エリアでは何故か新しい住宅すらも紫野らしさを感じるような場所は紫野の中でも特に「リトル紫野」と呼び、価値を見出している。i-②「常に大人の存在が感じられる」はお寺で子供たちがのびのび遊んでいるところに出会い(図9-pic[17])、Informant-Fの家にも子供が勝手に遊びに来ていた事等と結び付け、紫野地域全体で大人が常に見守っている(図9-pic[18])地域社会構造があるのではないかと価値付ける。

5. 考察—「ダイアログ手法」の応用可能性の評価

本章では得られた51個の「価値付け候補」の中から、それぞれが図3-①②の指標から目標に達成しているか半断し、その結果及びアンケートから都市探索における「ダイアログ手法」の応用性について考察する(表2の右半分)。

5-1. 発見的価値付けの達成度の評価

5-1-1. 図3-①自分独自の価値付けの達成について

プレ実験の結果^{注5)}からも分かるように居住者 DL は室

内で行うため居住者の指摘する具体的な空間は想像するしかなく、その後の都市探索グループワークでは内容の確認になりがちである。それは「価値付け候補」の中にも確認された。例えば、d-⑤「船岡山の南側」は「船岡山の南側が高級住宅街である」という Informant-A の話を実空間で確認したというものであり、発表中も「Aさんの言っていた話の確認なんですけど...(d)」と述べており、独自の価値付けとは認められない。同様の「価値付け候補」は15個確認された。残りの36個については、発表中に居住者の話との関係性について「...これは勝手な妄想なんですけど...(b)」、「...一番最初に見つけたんですけど、今日の発見です(d)」、「...紫野の位置付けが、僕的には感じた...(f)」等発言が確認されたり本人の申告があったりと、Approacher 毎の独自性を達成していると判断出来ると考えられる。達成していると認められるものには、①-1「居住者の話から発展的に地域を再解釈したもの」、①-2「居住者の話とは無関係に自身で作り出したもの」の2種類が確認された。居住者の話との関係の有無は表2の「居住者DLとの関連」欄にまとめ、「図3の到達指標」に2種類色分けして記述した。

5-1-2. 図3-②「都市認識」を捉えた価値付けの達成について

図3-①を達成する36個について、①-1と①-2に分けて考察を行う。ここで図3-②を達成するかどうかに関して、「ある現象に対しての価値付け(α)を抽象化し(β)、他の現象への価値付けに応用出来るような『都市認識』を指摘(γ)している」ことが、ダイアログ形式での発表中グループ内で了解出来る場合において達成していると認めることとした。以下に例示する「価値付け候補」の内容は4-3に示す。

まず①-1の中では、a-④④は賑やかな北大路通りの裏側での居住者の住みこなしを(α)、原風景である「野原」の気楽さやラフさとして抽象化して価値付け(β)、この見方に立って紫野の都市空間を見直すとこれまで注目されなかった建物や暮らしの様子の価値付けへと応用出来たり(γ)、「野原」を減らさない為のこれからの計画という視点も持

つことが出来たり(γ)することが了解出来た。また、c-①①①は地面と建築時代の異なる建物同士(α)を関連付けて紫野を4時代から捉えており(β)、この見方は一般にネガティブに捉えられがちな空き地の再評価だけでなく、4時代の共存バランスを検討する等地域に関わる新旧コミュニケーションの基盤としても活用出来る(γ)ことが了解された。d-①は、手入れされた地蔵とナンテン植木鉢を指摘し(α)、人々の気配りの意識が紫野全体に覆っていると捉え(β)、これはお地蔵さん以外にも指摘できる現象は大いにありそうだと了解出来た(γ)。同様にi-②はお寺や他人の家で子供がのびのび遊んでいる様子を(α)、紫野地域全体で大人が子供を常に見守っている地域社会構造(β)として捉えたものであり、これらは居住者にとっては目新しくはないかもしれないが改めて地域のアイデンティティとして掲げ今後の取り組みに応用する可能性が見られグループ内では了解された(γ)。結果、以上の4つが図3-②を達成していると認められた。

次に①-2の中では、結果から述べると図3-②の達成は見られなかった。例えば、d-⑥「かわい〜停止線」やg-②「鉢植え多い何か良い」現象それ自体の価値付けのみで抽象化(β)がなく、他の現象への応用性(γ)も了解出来なかった。また、f-①「リトル紫野」やh2-①「『間』で出来る紫野」は面白い独自性のある「都市認識」であるとも思われるが、内容が不明瞭で応用性(γ)がグループ内で了解出来なかった為、本実験では達成として認めなかった。

以上から図3の到達目標を達成している発見的価値付けを4つ確認することが出来た。

5-2. 「ダイアログ手法」の再評価

まずブレ実験においては図3-①さえも達成出来なかったのに対して、「ダイアログ手法」を取り入れたことによって全員が少なくとも図3-①を達成する価値付けをスケッチと共に発表出来たこと、さらに前項では図3-②の達成する発見的価値付けを4つ確認出来たことから少なくとも目標を達成出来る実施可能な手法であることが評価出来る。

表3：Approacher 毎の探索時の写真の撮影きっかけ（アンケート注7-①の回答内容より抽出して作成）

Approacher	都市探索時に写真を撮ろうと思ったきっかけ	写真枚数※
a	ダイアログで聞いた内容と結びついた現象、自分にとって発見的で、面白いと思った現象等を見つけたとき。	90枚
b	紫野に広がってる少し外に顔を向けた暮らしを感じるもの（人の様子も含めて）をメインに、対して、その要素とは逆の意味をもっていると強く感じるものを見つけたとき。	96枚
c	ダイアログで聞いていた話が目の前に実際に確認できたと思ったとき、もしくはダイアログを踏まえた上で自分なりに仮説的な見かたができたと思ったとき。	114枚
d	紫野らしいなぁと思ったら、発見があったり、単純に建物や景色が気持ち良かったりしたとき。	159枚・125枚
e	紫野らしさを感じたところ（町内会の存在がわかるものとか）、街並み、Informant-Dさんの話で登場した場所、景色のいいところ、個人的に気になったところ（おしゃれなお店とか）を見つけたとき。	119枚
f	この紫野地区のシンボルでもある大徳寺や建勲神社、などを目にしたとき。また、（自分が参加したダイアログに限りませんが）話で出てきた場面、または、それに関連する場所。その他、普段では見られない様子がうかがえたとき。	109枚
g	あまり見たことないような風景や、この雰囲気いいな・不思議だなと感じるところ、ダイアログの時に聞いた内容に関連するところ。具体的にはお地蔵さんや、路地が入り組んでいるところ、お寺がボツンとあるところなど。また、鉢植えが多いなと思ったので鉢植えの置いてあるところを見つけたとき。	143枚
h	Informant-EやIさんが話していて気になっていた場面に遭遇したときや、他のメンバーが、それぞれのダイアログで聞いたことに関する場面に遭遇したとき。また、それだけではなく、これは紫野らしいのかなと判断したとき。	195枚・126枚
i	自分が凄然といいなと感じたもの、ダイアログで聞いた話から気づいたもの、他の二人が反応したものに遭遇したとき。	92枚
j	序盤は自分が興味を持ったものとダイアログの話をたどるように写真を撮っていった。具体的には通りの写真や店の写真である。また次第に自分の中で紫野に対する気づきがあり街歩きテーマが出来上がっていった。中盤以降はそのいくつかのテーマに関する写真を意識的に撮っていった。具体的にはお地蔵さんの写真や細い路地の写真古い建物の写真を意識的に撮った。	186枚

※d, hはグループワークに2回参加しているため、「1回目枚数・2回目枚数」と記述する。

図3-①を全員が達成出来たのは自身が面白いと思う現象を先ず見つけるという、一度居住者 DL の内容から離れて探索を行ったことの結果であると思われる。また、「歩きながら、(スケッチを)描く内容のテーマを見つけると、それに関連することに目を意識的に向けて歩くことが出来た (f のアンケート注 7-⑤から抽出)」等の意見があり、表現自由度の高いスケッチ描画を前提とした探索も発見的な街歩きへの効果があると思われる。表 3 を見ても、「自分なりの仮説的な見方が出来た(c)」や「次第に自分の中で紫野に対する気づきがあり街歩きのテーマが出来上がって(j)」のように、全員では無いが探索時の段階で独自の見方を獲得していることが裏付けられる。またアンケートの注 7-⑦での回答では、「居住者 DL によって前もって生の街に対する感覚を持った状態で街歩きしたことがかなり重要だと感じた (j のアンケートから抽出)」、「紫野は何度か通ったことのある場所でしたが、居住者 DL の前後では見え方が違ってきました (g のアンケートから抽出)」等の意見が得られたこと、さらに表 2「居住者 DL との関連」で半数以上の価値付け候補に関連性があることから、探索を居住者 DL 後に実施する効果があることが推察出来る。

以上から、発見的価値付けの為の都市探索グループワークにおいて「ダイアログ手法」の応用性、居住者 DL を前提とした実施方法の一定の効果が示された。

5-3. 「価値付け候補」の再解釈と都市探索の展開に関する考察

図 3 で最終目標とする発見的価値付けは 4 つのみであったが、達成が認められなかった「価値付け候補」群にも活用可能性がある。実際、限られたグループワークの条件内では十分に考える時間が取れないこともあり、後から再解釈し直す事で発見的価値付けと認められることもあり得るからである。例えば、d-⑥「かわいい停止線」や g-②「鉢植え多い何か良い」について、前者は実際に子供たちが停止線の足跡で遊んでいる様子やその他の子供たち目線から見た紫野の特色を同じ問題設定から価値付けられるかもしれないし、後者も沢山の鉢植えの存在を許容するあるいは価値を置くような地域社会構造として捉え直せるかもしれない。本来、地域における多様な価値付けの共有というプロセスは 1 日のグループワークのみで完結するものではなく、時間を掛けて行うものである。その場合に、本稿で実施した都市探索グループワークの方法 (図 2) 及び発見的価値付け目標達成指標 (図 3) 等の考え方は成果を一旦評価し、さらに次への展開可能性がある点においても評価出来る。

6. 結 得られた知見

本稿では、京都・紫野地域で、居住者 DL を経験した Approacher 10 名で都市探索グループワークを実施し、居住者と共に作った「都市認識」と個別の現象を結び付けながらも、Approacher 毎に固有な発見的価値付けが出来る方法を確認した。方法において、探索中に居住者 DL での話を確認するのではなくてそこから発想を自由に広げて探索す

ることが一部達成出来、さらに「ダイアログ手法」を取り入れたグループワークが効果的に働くことも確認出来た。

また 1 章のように、紫野エリアは一般に大徳寺や船岡山等の観光地や歴史の舞台となってきた地域資源がイメージされがちであるが、その実態にはそうしたイメージと直結しない多くの都市空間が広がっている。一方、a-④④、c-①①①、d-①、i-②の 4 つは、これらの一般的イメージと必ずしも直結せず、かつ京都の市街地では珍しいことではないと見られがちな現象に対して (図 9 の関連写真群参照)、紫野の地域らしさを居住者 DL で抽象的に捉えたことから、具体性を持って発見的に価値付けた。特に京都でも一般にはネガティブに捉えられがちな現象である空き地が、野の時代を振り返って必ずしも地域らしさとしては問題のある土地利用ではないという考え方が得られたのは大きな発見であった。以上から「都市認識」を捉えることは、一般に共有されている固定的なイメージから、地域らしさを抽象的に捉え直すことで、一般的イメージからは直結しない都市空間の現象に対しても具体性を持って価値付ける事が出来る点において有用性があると思われる。

【補注】

- 注1) 空き家率の増加や高齢化は紫野でも顕在化している課題である一方で、近年転入者による個店営業も増加している。また、「弁慶の腰掛石」や「築式部の墓」等著名な伝承や歴史が親しまれる地域でもあり、それらをコンテンツとしたまち歩きイベント開催にも取り組んでいる。
- 注2) 本研究における「ダイアログ」は、物理学者 D.ボームの提唱している「Bohm Dialogue」を基にしている。すなわち、「ダイアログ」とは、「原則としてリーダーは置かず、何の議題も設けずに行い、決定を下さず、あらゆる意見や想定を考え表に出すことを通して、新たなものを一緒に創造すること」である。
- 注3) この手法は、Approacher がスケッチによって解釈の幅のある対話内容をその都度外化しつつ、参加者全員で描かれた内容を確認し合うことを繰り返すことで理解を深め、新しい意味を作り出す対話の方法であり、「都市認識アプローチ」の基礎技術として位置付けられている。「都市認識アプローチ」とは、「ダイアログ」手法を基礎技術とした、個々人の固有な「都市認識」に基づく多様な価値付けを対話的に都市・地域に保留する (集合的価値付け) ことへ向けた実践方法の総称である。
- 注4) 2014 年 11 月～12 月に西陣エリアにおいて、7 名の居住者と実施した居住者 DL を基に、西陣における観察グループワークを実施した。方法は以下のようである。まず、同じ居住者 DL に参加した Approacher 3 人 (この内 2 人は本稿のグループワークにも参加した a.b (表 1) である) を 1 つのグループとして、事前にも大まかな街歩き計画を立てる。当日は計画を基に観察しつつ歩き、適宜メモや写真を撮りつつ発見的価値付けを試みる。その後どのような価値付けが出来たかの発表を行い、自由記述のアンケートを実施した。以上の方法から得られたデータから考察を行った。
- 注5) 注4の方法によって実施したプレ実験では、発見的価値付けは得られず、居住者 DL の話の確認になってしまった。実際アンケートでも、一人は「今回の実験では基本的に西陣の範囲の話を聞いて見ていったという感じで、ネットワークの話や、積みだしの話という話結局良く分からなかった」と述べ、またもう一人は「西陣としてのエリアの広がりとその強さが自分の中では実体験として得ることができた」等同じような意見が得られたことから分かる。これは正解を意識して見つけるような観察であり、新しいものを発見するようなマインドになっていないことが伺えた。方法に関して「計画段階で今回準備していったことは、詳細に決められているほど歩く上でやりやすかったので、なるべく探せる情報を探して行った方がよい」という意見があったが、これは逆に発見的価値付けが得られない歩き方をスムーズにしたのであり、既知情報の確認に向いていることが考察された。そこで本稿で図2のように自由探索とし、さらに積極的な観察を強えられるスケッチを導入するなど改善した。
- 注6) ダイアログ形式での発表とは、「グループ内の 1 人が他の 2 人に向けて抽象的な表現を含むようなスケッチを、具体性のある写真やコメントも補足しながら発表し、グループ内で意味内容を分ろうと勤めて話し合い 3 人で理解する解釈に至るやり方」である。
- 注7) 以下の 10 項目について、自由に記述して貰った。先ず、探検時の様子に関して、
① どういう時に写真を撮ったのか、そのきっかけを記述して下さい。
② 探索中に特に印象に残った場面 (写真) はありますか、具体的に記述して下さい。
③ 歩いている際残り 2 人との会話などのように影響しましたか。具体的に記述して下さい。
④ 写真を撮らなかった場所や区間ありましたか。また何故撮らなかったと思いますか。
また、スケッチに関して
⑤ 探索中から描く内容が浮かんでいましたか。
⑥ スケッチをしたが、発表するに至らなかった内容ありますか。
⑦ 今回の探索で居住者とのダイアログでの経験がどのように活かされていると思いますか。
自由に記述して下さい。
⑧ その他、特筆すべき出来事や発見はありますか。自由に記述して下さい。

【参考文献】

- [1] D・ボーム：「ダイアローグ - 対立から共生へ、議論から対話へ -」, 2007.10
[2] 太田裕通、神吉紀世子：京都・西陣における居住者が抱く『都市認識』を通じた地域への価値付けを扱う『ダイアログ』手法の開発 - 都市・建築デザインのための『都市認識』へのアプローチ法の初期的研究, 公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol.50 No.3, pp.1218-1225

(2016 年 11 月 7 日 受付)